

【第9回 分科会の意見交換の中から】

○ 生きがいについて

- 1 「働きがい」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」等、多様に捉えること。 注1

↓

(課題)

- 2 様々なメニューづくりと地域活用の拠点及びネットワークづくりが肝要 注2

↓

(現状・解決策)

- 3 身近な場として「ことぶき館」「社会教育会館」の活用が考えられる。 注3

↓

(提言)

- 4 *運営に関してもっと区民の声の反映を
世代間交流のプログラムなど。

「高齢者の文化」を真剣に話し合う場を公的につくる必要がある。

注1

<生きがいの種類>

○生きがい

自由の時間が出来て考えはじめた。

知的障害の子を育てる中で、高齢者の方も地域の中で生きがいを見つけられるのでは。

○労働や趣味、ボランティアの提供、イベントの紹介、

○高齢者の方自身が地域の中で役に立つという意識が持てる活動の提供

<ハウ・ツウ>

○高齢者

元気だが人嫌いな人への働きかけとして

①根気が必要 1～2年かけ

(地域活動のおさそいを何度もしてみる)

<団塊の世代>

- 団塊の世代
 工作中から地域とのかかわりが持てるようにする必要がある。
- 団塊の世代の取込み
 (ラジオ体操に父親が同伴)
- 団塊の世代として
 生涯現役で趣味を活かしたい。戸山の団地まつりをネットワークにより継続できれば良い。
- 団塊の世代対策
 - ①地域のイベントを日曜等に開催する
 - ②自治会長も若返りが必要
 - ③家族の協力を呼びかけ

注2

<きっかけづくり>

- 少しずつ仲間づくりを続け、運営委員にもなってもらおう。
 (町会活動等にも参加してもらい、引っ張り込む)
- 仲間づくりの支援
- NPOや社会貢献活動を踏まえた財政負担

<情報提供>

- 情報の使い方
 口コミ情報はやはり有効、そういう意味でもネットワークや拠点は大切。
- コンビニなどにも
 情報誌を設置するなど工夫、広報「しんじゆく」への掲載、

注3

<既存施設>

- ことぶき館の利用の仕方
 メンバーの固定に対し、職員側の働きかけがない。
- 団地の集会室をコミュニティの拠点にできるかも。区有地も活用してもらいたい